

県土の概要

四季折々の 自然豊かな風土

奈良県は、日本のほぼ中央部・紀伊半島の真ん中に位置し、
周辺を山岳に囲まれた内陸県です。面積は3,690.94km²で、
全国的には40番目にあたり、国土の約1%です。



※その他には、原野、道路（一般道路・農道・林道）、水面・河川・水路等が含まれる。
 出典：国土地理院ウェブサイト <https://maps.gsi.go.jp/vector/> をもとに奈良県作成
 奈良県国土利用計画、令和3年土地利用現況把握調査

地域で異なる『奈良県』の気候

本県の気候は概ね温暖ですが、紀の川を境として、南部は山岳で占められ山岳性気候、北部は盆地で内陸性気候です。東部山地は内陸性気候と山岳性気候の特徴を兼ねています。



【北部】内陸性気候

- 概ね雨は少なめ
- 夏: 蒸し暑い
- 冬: 底冷えが厳しい

【東部】内陸性気候 かつ山岳性気候

- 気温の日較差が大きい
- 大和高原では特に冬は厳しい寒さ

【南部】山岳性気候

- 夏: 雨が極めて多く、時には局地豪雨が起る
- 冬: 厳しい冬山の様相を呈し、積雪も深い

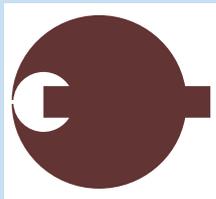
『奈良県』の人口

▶ 1,295,681人(R5.10.1現在)

前年に比べ10,300人(0.79%)の減少 ↓

市町村別に見ると、最多は奈良市の351,711人、最少は野迫川村の346人です。直近5年間(H28.10.1~R3.9.30)で人口が増加した市町村は王寺町(832人増)、広陵町(373人増)、葛城市(360人増)、斑鳩町(294人増)の4市町で、減少したのは35市町村でした。

奈良県のシンボル



県章

奈良県の「ナ」を図案化したもので、外円はまほろばの大和の自然を、内円は“和をもってとおとし”とする調和の精神をあらわにしています。円を貫く横一文字の軸は、県政水準のたゆみなき進歩をあらわしています。

県名の由来は、平安時代から鎌倉時代にかけて、東大寺や興福寺の門前町として「奈良町(ならまち)」が生まれ、江戸時代には幕府の奉行所がおかれて政治の中心となりました。明治時代になって県名をつけるとき、それをとったものです。



県の花 奈良八重桜
(昭和43年3月告示)



県の鳥 コマドリ
(昭和41年6月指定)



県の木 スギ
(昭和41年9月指定)